

事案名	高岡市（第6陸軍技術研究所高岡出張所）の事案（富山県16-1-1）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「陸軍科学研究所及び第6陸軍技術研究所に於ける化学兵器研究経過の概要（第一案）」昭和31年6月〔1〕 ・証言（元第6陸軍技術研究所高岡出張所勤務者の証言）〔2〕 ・「本邦化学兵器技術史〔年表〕」昭和32年〔3〕 ・証言（元第6陸軍技術研究所長の証言）〔4〕 ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告（案）」〔5〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A1〕 ・『平成16年度B/C事案における第2次地下水調査業務報告書』〔A2〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>富山県高岡市には、昭和19年に第6陸軍技術研究所の一部が民間工場に疎開して高岡出張所を開所し、同工場内に毒ガスの製造施設を設置した。終戦時に残存した毒ガスは、関係者が廃棄したとされる。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6陸軍技術研究所高岡出張所（人員は約200名）は、毒物製造の合理化（主としてきい剤及びちゃ剤）の研究を行っていた〔1〕。 ・証言によると、証言者（元高岡出張所勤務者）は、出張所の総人数は100名程度で、組織は3班に分かれており、第1班は「ちゃ剤」の製造、第2班は「きい剤」の製造、第3班は製品管理を担当しており、第1班・第2班は、各10名程度の人員であった。毒ガスの製造は、「ちゃ剤」は昭和20年6月に製造設備の試運転を1回のみ実施し、製造した青酸ガスをタンクに約200L保存した。また、「きい剤」の製造設備では、ウイスキー樽様のものが7から8槽設置されており、設備の運転は、1回から2回のみと思われると記載されている〔2〕。 ・高岡出張所では、主として青酸を製造しており、人員は200名であった〔3〕。 ・証言によると、証言者は（元第6陸軍技術研究所長）、終戦時に高岡出張所にはイペリット入り鉄容器4個（約800kg）が存在していたと記載されている〔4〕。 ・終戦時に高岡出張所にはイペリット0.8tが存在していたと記載されている〔5〕。

<p>新たな情報</p>	<p>その他情報</p> <p>(1) 第 6 陸軍技術研究所高岡出張所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧第 6 陸軍技術研究所高岡出張所が存在した民間会社工場の建物は、現在も同社工場の一部として使用されている〔 A 1 〕。 <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間会社工場内の井戸では、平成 1 0 年から平成 1 4 年にかけて地下水調査を行っており、ヒ素は環境基準値 (0 . 0 1 m g / l) 以下であった〔 A 1 〕。 ・環境省が実施した地下水調査の結果、毒ガス関連成分は検出されなかった〔 A 2 〕。
--------------	--

<p>事案名</p>	<p>高岡市（第6陸軍技術研究所高岡出張所[河川]）の事案 （富山県16-1-2）</p>
<p>フォローアップ調査資料</p>	<p>・証言（元高岡出張所勤務者の証言）〔2〕</p>
<p>平成15年度 フォローアップ調査報告書の要約</p>	<p>廃棄・遺棄情報 ・証言によると、終戦後4日から5日の間に、書類はボイラーで焼却し、器具は破壊後に廃棄処分した。「ちゃ剤」は水で希釈して同出張所横に流れる川に流した。「きい剤」は4～5名の人員が4トトラック1～2台で富山連隊の演習場に運び、焼却処分したとの話を処分実行者から聞いた。処分の際に2名が毒ガスの飛沫を浴びて顔面が爛れていたと記載されている〔2〕。</p>

事案名	第6陸軍技術研究所高岡出張所（陸軍演習場）の事案（富山県16-1-3）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言（元第6陸軍技術研究所長の証言）〔4〕 ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告（案）」〔5〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『福光町史』下巻〔A1〕 ・『県営農用地開発事業立野原地区事業史 拓魂豊潤』（昭和59年3月）〔A2〕 ・『平成16年度B/C事案における第2次地下水調査業務 報告書』〔A3〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年8月に、保有していた毒ガスを演習場内で焼却処分したと記載されている〔5〕。 ・元第6陸軍技術研究所長は、イペリット入り鉄容器4個（約800kg）を、富山県南砺市の旧陸軍演習場で3日間かけて所員が焼却したと証言している〔4〕。
新たな情報	<p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毒ガスを焼却処分したとされる陸軍立野ヶ原演習場は、2つの町にまたがり、南北は約6km、東西は広いところで約2kmに及ぶ広大な敷地である。終戦後、同演習場は民間に払い下げられ、開拓団により農地として開発された。昭和40年代には開拓、土地改良事業により大規模な土地造成や土壌改良が行われている〔A1〕〔A2〕。 ・環境省が実施した地下水調査の結果、毒ガス関連成分は検出されなかった〔A3〕。